

松戸市議会教育経済常任委員会で 松戸市立小学校設置条例改正案が可決！

9月10日（金）松戸市議会教育経済常任委員会が開かれ、議案第8号「松戸市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について」が話し合われました。これは根木内東小学校・新松戸北小学校・古ヶ崎南小学校の3校の廃校を決めるものです。会議は午後1時から始まって、終わったのが7時過ぎ。傍聴者は120名以上。いつもの委員会の時より広い部屋が用意されたにもかかわらず、傍聴者は入りきらず、別室で音声のみを聴くことに。当日の傍聴メモから会議の様子を報告したいと思います。あくまでもメモなので、間違いも多いと思いますが、ご容赦を。（浅井）

《質疑》

深山議員

これまで市教委の説明責任を果たしてほしいと条件をつけてきた。しかし、一部から市教委は不誠実だという声も上がってきている。子どもにとって大事な施策だと考えるが、これが出てきた背景をもう一度振り返ってほしい。

校長会・当該校の校長・先生との話し合いはもたれているか。しっかりいってないような感じを受けた。

吸収合併のようなやり方では子どもたちがかわいそうという声がある。教育改革アクションプランでは、学校統廃合をする時の配慮すべき事項として9項目あげているが、それについての説明を。

市教委

（相澤）校長会で共通理解を図っており、全校長が共通の認識を持っている。当該校の校長には、施策の理解をはかり、事務的作業の協議も行っている。教頭会でも同様に、理解の徹底を図っている。

（杉浦企画管理室長）配慮する事項は以下の通り。

- ・各学校で進められる学校経営の引継ぎについて配慮する。
- ・児童生徒の不安、動揺を最小限とするよう、教員の配置、クラス編制などに最善を尽くす。
- ・教育課程の編成、教育方法及び学校運営について、関係する学校間の話し合いを尊重する。
- ・統合後の通学の安全について、安全指導教育の徹底、関係機関への働きかけを行

う。

- ・保護者負担をできる限り生じないように、標準服など学校において必要な経費について配慮する。
- ・記念室などの設置など統合する学校の歴史や伝統を尊重することについての関係者の話し合いを尊重する。
- ・校名、校歌、校旗については、関係する学校、保護者の話し合いを尊重する。
- ・現在通学している児童についての統合の実施については、関係者の話し合いを尊重する。
- ・HP・Eメール等により情報の公開、パブリックコメントの募集等を行います。

深山議員

学区の見直しについて、4地域で具体的にどのように困難であったのか。
9項目は4地域共通のことか。

市教委

(稲積学務課長)学区を変更して、学区の形状を変えることは避けなければならない。一時的な児童・生徒数の増減では意味がない。学校が市の面積に比して多いので、学校が近接している。見直しをすると、隣接する学校の規模が逆転することが多い。また幹線道路をまたぐのは避けなければならない。何校かに渡る学区の見直しも避けなければならない。……(具体的な数字を挙げて説明)

(杉浦企画管理室長)基本的には、小中学校共通。昨日中田議員へ教育長が答えたように、校名は中学校を想定したもの。

深山議員 校名は全体に配慮すべきことと思うがどうか。

小笠原生涯学習本部長 強い意向があった場合は考慮する。保護者の意向を尊重するということ。

佐藤議員

現在の状況は合意を得られたものと判断しているのか。合意を得るための努力をしてきたと言い切れるのか。

対象校でのアンケート結果についての見解は？

市教委

(杉浦)全部が全部とはいえないが、協議会の中で統合に向けた条件的な提示がされるようになってきた。多数決で決めていくのはどうか。少数の意見でもいいものは取り入れていく。100%とは言えないが、できるだけ多くの人々にわかってもらえるよう説明責任を果たしていきたい。合意を得るのはむずかしい。

佐藤議員 当初のプランでは、平成16年4月に準備事務局設置とあるが、今、1ヶ所しかできていない。この計画自体に無理があったのではないか。

市教委 (杉浦)期間が長くなるほど、子ども・保護者が不安になると考えて…

佐藤議員 これだけの反対を想定していなかったのではないか。

市教委 (山根)虚心坦懐に受け止めなければならない。保護者の心配や疑問にどう答えていくかが問題。教育活動をどう維持させていくかを考えて、統合を前提に事前の準備を進めている。これを積み上げて、実践を通して、保護者の心配や不安に答えていく。

佐藤議員 8月5日の教育委員会会議での認識・判断は？合意を得たと判断したのか？

市教委 ……（ゴチャゴチャいろいろ説明するが、肝心の質問には答えず）……

吉田議員

根木内地域は、合意を得たから準備事務局が設置されたと思っていたが、事実はどうか。

市教委

（杉浦）学校・保護者との綿密な打ち合わせをして、準備事務局が出来上がった。

（山根）協議会でアンケートをとっている。根木内小では、PTAと学校長が中心になって…。

吉田議員 当該校の先生方への説明は？教職員はどのように理解しているのか？

市教委 （山根）校長会を通して話すのが筋。中学校は両校の教員を集めて説明。教職員へ統廃合について説明するのは目的でない。教育改革の本旨については理解しているはず。小規模校の大変さは、教員なら経験で、説明しなくてもわかるはず。

吉田議員 児童生徒に対しては、どのように指導しているか。

市教委 （相沢）子どもは私たち大人が考えている以上に適応力がある。道徳・特活で新しい学校に慣れるよう指導している。新しい学校作っていこうという気持ちや、仲間作りの意識を高めるようにしている。スクールカウンセラーの活用・スタッフ派遣で、子どもたちの心のケアをしていきたい。

吉田議員 学校統合というより、新しい学校を作りたいという意向があった時、条例にかかわらず、校名変更は可能なのか。

小笠原生涯学習本部長 かなり強い要望が会ったら対応せざるを得ない。

吉田議員 小金中は休校になり、在校生は新北中へ転校になると、保護者から疑問の声が大きく上がっている。

市教委 （杉浦）小金中、学校は存在するが、学区は新北中学区になる。

吉田議員 以前、小金中にパイロットスクール構想があったが？

市教委 （杉浦）あれはあくまでも、文科省の研究指定を受けて作ったモデル。あれとは違う形でやる。生徒・保護者も入っていただいて、再構築する必要がある。

吉田議員

中学校の学校名は、平成17年4月から新しくするのか。

小金中の保護者で、「子どもがむりやり残れば学校は存続するのではないか」と言っている人がいる。

市教委（杉浦）

校名はまだ決まっていない。旧校名でいく。新校名が早期に決まれば、なるべく早い対応ができる。

残れません！

吉田議員

新北小、小金中のなかよし学級の移転準備はどうなっているか？

8月の教育委員会会議で、教育委員長が、その時の議論の内容や雰囲気を議会で伝えてほしいと言っていたにもかかわらず、市教委事務局は、全く伝えませんでした。

1人でやっと学校へ行かれるようになった、なかよし学級の子どもたちへの配慮は？学校が変わることのストレスへの配慮は？

市教委

(一色施設課長) 9月いっぱいです。新西小は3教室分の改造。新北中も3教室分の改造。

(教育研究所長) 子どもたちへの配慮は、先生の質の問題。新西小の教員は特別支援教育についての研修を行っている。安全については、補助教員やスタッフ派遣で対応する。

谷口議員 地域への説明はどうなっているか。

市教委 (杉浦) 地域の要請があれば、説明に行っている。連合町会を通して行っている。

谷口議員 説明会の時、地域の者を排除したではないか。もっときめ細かな説明が必要だ。

大井議員 小・中学校1校あたりのランニングコストは？ 統廃合のコストパフォーマンスは？

市教委 (杉浦) 3校分の経費軽減は、人件費1億2100万円、施設維持管理費500万円、光熱水費等4600万円。

大井議員 跡地の裏契約などという風評についての真偽は？

小笠原生涯学習本部長 事実ではない。

大井議員

もし条例が可決されたとして、今後の取り組みのスケジュールはどうなっているか。

当該校の校長・教員・生徒・保護者への説明は？

関連校への説明は？

市教委

(杉浦) 早期に日程を決めていきたい。10月早々には対象校へ説明を行う。10月中には出来れば準備作業に入りたい。少なくとも週1回程度の打ち合わせをしていきたい。

周辺校には早々に。

大井議員 当該校の子どもが、他の学校へ行きたいとした場合は？

市教委 (学務課長) 保護者の要望にはぜひ応えていきたい。在学生の要望はなるべく早い時期に聞いていきたい。新1年生は、抽選の対象にならない、申し立て制度で異動してほしい。

武笠議員 市教委は、100回説明に行ったというが、各校にしたらそうはならない。また、北部小・中部小には行ってないが。

市教委 (杉浦) 100回行ったらいいとは思っていない。中身が問題。また、北部小・中部小には、校長会・教頭会・教務主任会で説明している。

武笠議員 合意を取れたのか。第一回の説明会で、山口前生涯学習本部長が、「地域での合意が得られなければ統廃合できない」と言っていた。古ヶ崎南小と新松戸北小の保護者アンケートでは反対が圧倒的多数。根木内地域では、保護者の同意なしでの準備事務局設置ではないか。

- 市教委** ... (何と答えたかメモが抜けているが、きちんとした回答はしていない) ...
- 武笠議員** 新北小の現在の5年生は毎年通う学校が変わることについて、どう考えるか？
- 市教委** (山根) 実施の年次をずらしてもそうなるので、申し訳ないですが...
- 武笠議員** 松戸市の教育改革のためには、この子どもたちに犠牲になってもらうということが。
- 市教委** (杉浦) 松戸市全体の子どもたち総体のことを考えて...
- 武笠議員** 4 地域一緒に、小・中一緒に、実施しようとするからこういう問題が出てくる。段階的に実施していくという方法もあったはず。
新松戸地域のマンションが建った時、寄付金を貰っている。この寄付金で学校が建っている。地元が学校を建てるのに貢献してきたことについてはどう考えるのか？
- 市教委** (杉浦) 確かに学校建設のため、寄付を受けてきた。
- 都市整備本部長** 以前まちづくり要綱(現在は廃止)で、市内全域で負担してもらっている。そういう学校を廃止するのは、現在の社会情勢に対応していくためだから、社会通念上おかしいとは思えない。
- 武笠議員** 根木内地域の方が出した人口推計では、統合後平成21年に996名、平成22年には1046名になって、大規模校になってしまう。松戸市が出した推計と違うのはなぜか。
- 市教委** (学務課長) (いろいろと説明して、根木内地域の方が出した人口推計値に難癖をつける!)
- 箕輪議員** 対象校の跡地利用は？
- 市教委** (杉浦) 6月1日、政策調整会議で投げかけている。今後、プロジェクトチームを作り、検討していく。その前に、暫定利用のプロジェクトも作っていかなければならない。次の跡地利用の足かせにならないように。市長部局全体の中で考えてもらいたい。青写真が出来たら、地域の人たちに説明し、意見を聞いていきたい。
- 箕輪議員** 市教委の職員には、関係性の作り方を勉強してもらわないといけない。理解してもらえるような話法を、行政職員は身につけなければ。
- 宇田川助役** 市長部局も協力し、全庁を上げてプロジェクトチームで取り組んでいきたい。
- 箕輪議員** 施設面の課題の予算的な裏づけは？
- 市教委** (杉浦) 私たちが必要と思われたことについては、財政当局に要請していきたい。
- 谷口議員** ・小金中の2年生が卒業するまで1年待てないか。
・準備事務局を作って、強引に進めるのか。
- 市教委** (杉浦) 理解を求めよう努力する。
- 諸角議員** 教育委員会のこれまでのやり方には疑問を感じる。古ヶ崎南小のできる前の学区に戻せないか。
- 市教委** (学務課長) 古ヶ崎南小は、北部小・中部小・古ヶ崎小からわかれてきた。

元の学区の学校へ行くだろうと予想している。保護者の選択がある程度続いてきたら、いずれ学区の変更を考える。

諸角議員 予想以上の数の子どもが北部小に殺到したらどうするのか。

市教委 (学務課長) いずれの学校も教室数は足りている。

伊藤議員 どうして条例案を提出したのか。それを今日一日で決めてしまうのはどういうことか。合意を得られていないことを杉浦さんは初めて認めた。何%の合意を得られたと把握しているのか。

市教委 (杉浦) (答えられず) ...

伊藤議員 合意の条件としてあげられていた準備事務局の設置だが、根木内東小の校長は、「準備事務局の設置について保護者の合意は必要ない」と言ったようだが。

齋藤教育長 これは行政計画である。計画に沿って動くのは当然のこと。校長は行政職ではなく、教育職。教育的視点に立って仕事をする必要がある。問題発言ではないかと思う。

伊藤議員 準備事務局についての通達を出したのはいつか。

市教委 (山根) 根木内小、根木内東小ともに5月26日。

伊藤議員 準備事務局の設置が職権で進められている。市教委は校長にどのように指導してきたのか。

市教委 (山根) 通達文書は、「準備事務局設立に向けて格段の配慮を」という文章になっている。

齋藤教育長 根木内・根木内東の準備事務局が強引に作られてきたと判断されているようだが、それは違う。保護者会・役員会を何回も繰り返し行ってきた。アンケートも行ってきた。保護者の意見を集約する形で作られたと認識している。強制的に作らせたわけではなく、自立的に立ち上がった組織である。

伊藤議員 アンケートの設問は、「もし統廃合が不可避ならば、準備事務局に保護者が参加したほうがいいのか」というもの。統廃合について賛意を表したものではない。市教委の誠意のなさが市民との信頼関係を損なっている。そこが問題。

吉田議員 なぜ新北小を新西小に統合するのか。

市教委 (杉浦) 確かに以前は、新西小を新北小に統合するという案だった。それは適正規模から考えてのこと。適正配置と跡地利用のことを考えて、新西小に統合することに。また教育的効果も考えて。

.....《討論》.....

谷口議員 反対である。

武笠議員 総合計画の中では、人口50万都市を目指している。3万人の人口増を目指して施策を立てているはずなのに、学校があまるはずがない。反対である。

箕輪議員 一人一人の思い、胸を締め付けられる思いがするが、教育改革はやはり必要である。苦渋の選択ではあるが、条例には賛成。

伊藤議員 反対である。

佐藤議員 教育委員会は説明責任を果たしていない。すべての混乱は教育委員会の計

画の進め方にある。しかしこの混乱が続くことは子どもたちにとって不幸。
苦渋の選択で賛成する。

《採決》

賛成（6名） 大井議員、佐藤議員、箕輪議員、深山議員、諸角議員、吉田議員
反対（3名） 伊藤議員、谷口議員、武笠議員

以上のとおり、この条例は教育経済常任委員会で可決されました。
この後、異例のことですが、教育経済常任委員長の小沢議員が私見を述べました。

<委員長私見>

この条例案は、規制緩和と地方分権が進む中、今後松戸の教育は松戸でという覚悟をしめされたものと思う。そのための基盤整備が必要であるということだ。これからの子どもたちの教育にとって必要な理念だと思う。しかし、これらが市民に伝わっていない。そのことについて、市教委の猛省が必要である。

保護者・住民とわだかまりを残さず、信頼関係を築くよう努めてほしい。

最終日まで時間があるが、議会として行政部に、今後の取り組みとして要請することを検討する。要請した時は、真摯に受け止めてほしい。

苦渋の選択というならば、市民の側に立った選択を！ 市教委に猛省を促すのなら、条例否決という態度で示してほしかった。言葉だけでは、市教委は猛省などしないでしょう。「やった！」と心の中でほくそえんでいることでしょう。なんとも悔しい！

賛成した議員も、鋭い質問をし、内心はおかしいと思っているはず。なぜ否決しないのでしょうか？

当該校の保護者・地域の人たち、私たち市民は、賛成した議員のことを決して忘れないでしょう。

まだ21日の本会議があります。ぜひ傍聴を！